

2013年度 公益社団法人乙訓青年会議所
理事長所信

公益社団法人乙訓青年会議所
理事長 岡村 猛

はじめに

「まちづくり、ひとづくり」乙訓青年会議所は発足以来、地域に根差し、時代にあった運動を展開して参りました。まちを形成する自然、環境は絶えず変貌を繰り返します。そこに暮らすひとの営みはいつの時代も変化し、逆境に出会い、試行錯誤を繰り返し、成長過程を歩んでいくものです。志高い先輩方は乙訓の問題提起に対し、勇猛果敢に立ち向かい活動してこられました。掲げる目的達成の為、何をすべきか、どう動くべきか、私達はどの様な状況からも逃げる事無く立ち向かう必要があります。

青年会議所は単年度制であり、その活動期間は青年期が終わりを告げる40歳までです。しかし青年会議所が掲げる理念の継承に終わりが来る事はありません。青年会議所メンバーとして、今ここに活動している痕跡は未来永劫愛する乙訓の理念として生きていきます。「過去、現在、未来」全て一本の線で繋げる為、我々はその場、その時、その一年、決して手を抜く事無く活動に邁進しなければなりません。それが乙訓青年会議所メンバー全員に課せられた使命です。

直心熱動

2004年、私はこの栄えある乙訓青年会議所に入会しました。青年会議所メンバーであれば誰しも青年会議所での活動意義に直面し、悩み、時には活動から目を背けたくなった事があるでしょう。勿論私にもありました。その中、私は理念を強く抱く先輩方に出会い、共に悩み励まし合う事の出来る友人達に囲まれ、愛すべき後輩達に支えられました。己の意思で門を叩いたこの乙訓青年会議所です。ここに居るのは間違いなく「我以外皆師なり」私は組織としての目的達成、そして私自身の成長の為、真っ直ぐな心で、情熱的に活動して参りました。

「素直になりなさい」よく言われる言葉です。どんな状況でも全てに対し学ぶ心を持ち、私心にとらわれず受け入れる。そうすれば物事の真実が明確になり、自分を信じ真っ直ぐな心で行動に移す事が出来る。「直心熱動」これは私が乙訓青年会議所に関わる全ての人達と共に情熱的な活動を通じて得たものであり、生涯の指針として忘れる事無く持ち続ける理念です。直心の気概を持ち、勇猛果敢に熱動すれば、誇り高く青年会議所活動に取り組む事が出来、組織の目標が達成され、必ずや個々の自己成長に繋がります。

社会道徳の向上を目指し、郷土愛高まる乙訓を創造しよう

善悪の判断を行う道徳心は個々の価値観により形成されます。それは経験、学習、環境により形成されます。この価値観は時と場合によって悲劇を起こします。連日の様に報道される凄惨な事件は、自分さえよければいい、周りは関係ないと言う価値観が招いた結果であると考えます。ひとを思いやる心を持ちなさい、ひとに迷惑をかけてはいけません。私達は子どもの頃から当たり前の事として教えられて来ました。地域、友人、学校、職場、ひとが集まれば社会が形成されます。社会の秩序を守

るべき社会道徳、この当たり前の教えを大切に持てば郷土愛に満ち溢れたひととまちが形成出来るはずです。

現在の子ども達を取り巻く環境は、私達が過ごしてきた時代とは違います。青少年犯罪の凶悪化やいじめ等の痛ましい事件は、もはや他人事ではありません。子ども達の健全なる育成の為に、まず私達大人が幼少の頃より教えられ培ってきた社会道徳について真摯に学び、子ども達に何が善で何が悪なのかを明確に伝える事が必要です。自信と責任感を持って堂々と子ども達に進むべき道を教える事が乙訓地域の社会道徳の向上に繋がります。その上で、子ども達に学びの場、環境を与える事が必要となります。ひととの関わりを学ぶ事により相手を思いやる気持ちが芽生えます。自然環境に触れる事により郷土愛を育む事が出来、命の大切さを知る事が出来ます。学校、家庭での教育に加え地域全体で青少年育成に取り組み、未来の地域を支える子ども達と共に、地域を愛する乙訓を未来永劫形成していく事が出来ます。

まちは、ひとと環境の共生により成り立っています。乙訓の発展に資する為、まず地域市民が今まで以上に郷土愛を高める事が必要であると考えます。生まれ育ち、生活を営む乙訓は心安らぐ場所であり生活の基盤となる場所です。現在、乙訓地域には約15万人の方々が生活を営んでおられます。乙訓を形成する地域市民同士が郷土愛を高める為に、乙訓地域にしかない魅力を導き出す事業を構築、発展させていく必要があります。乙訓青年会議所が長年開催して来た乙訓水辺フェスティバル事業における真の目的は、乙訓地域の財産である豊かな自然、歴史、文化と触れ合う事により多種多様な価値観を持つ地域市民が共通の目標を掲げ乙訓を愛する事にあります。郷土への愛がひとを幸せにし、郷土の恵みがひとを生かす真意を青年会議所として乙訓地域に発信していく必要があります。

JAYCEEとして社会的責任を果たそう

未曾有の経済危機と言われ、政治も迷走を続ける今、私達は何をすべきでしょうか。戦後、先人達は荒廃の中から生きる希望を導き出し、見事な復興を遂げました。厳しい状況におかれた時、人間は考え悩み成長していきます。逆境は人間を成長させるチャンスであり、どの様な状況におかれても社会的責任を果たす事の出来る人間形成が今の時代必要であると考えます。

青年会議所メンバーとして、また一社会人として社会的責任を果たす為には、行動を内面から支える人間力の向上を目指す事が必要です。人間力の構成要素は自己の表現能力、主体性のある行動力、本質を見抜く洞察力から成り立つと考えます。この力は思いやる事、助け合う事、感謝する事を念頭におけば必ず身に付きます。経営は経営者の能力だけでは成り立ちません。地域活動はリーダーの想いだけでは実践出来ません。企業を形成しているのは経営者と企業を支える社員であり、地域活動は関わる全てのひとの協働により実践されます。相手の立場、自分の役割を認識し、各々があらゆる場面で能力を発揮出来る人間力を向上させる事が出来れば、どの様な荒波にも負けない魅力ある人間として成長していきます。

乙訓青年会議所の社会的責任として、乙訓青年会議所の運動を明確な情報にして、行政や地域諸団体に対し発信しなければなりません。地域の為に運動する団体は私達だけではありません。私達が住む乙訓には形態に違いはあっても乙訓の為に運動されている団体が多く存在します。乙訓青年会議所、そして地域諸団体が行う運動を互いに検証し合う機会を継続発展させ、組織と組織の絆を深める事が出来れば必ず大きなネットワークとなり乙訓の発展に繋がります。周りを知る為には、まず己を知る。今一度創始の精神を振り返り、乙訓青年会議所が地域の中核団体として存続する意義を知る必要があ

ります。そして青年会議所にはJ C Iを始め、日本青年会議所、近畿地区協議会、京都ブロック協議会など多くの組織があります。各地域においての活動、そこにも多くの学びがあります。出向先でメンバーが頑張っている姿、そして各々の活動意義を明確に発信する事が仲間としての責任であります。

絆を結び、未来へ継承しよう

青年会議所には多くの出会いがあります。入会しなければ出会う事の無かった仲間。そこで築いたひととの繋がりは絆となり、必ず人生において大きなものとなります。相手の立場に立ち、熱く夢を語り合える関係を構築出来れば、何事にも揺るがない絆の構築に繋がるはずです。

青年会議所活動を通じ互いに切磋琢磨する中で、自分の存在意義に悩む事もあるでしょう。しかしその中で仲間と苦楽を共にし、笑いあい、時には議論をし、邁進していくものです。自己の主張を理解して欲しいのなら、素直な心で相手の考え、相手の立場を理解する事です。乙訓青年会議所での活動に一切の妥協をする事無く取り組む為、会員同士が交流し、互いの考え、理念を熱くぶつけあう事が必要です。今の自分が居るのは周りの人達のおかげ、感謝の念を込め親睦を深める事も青年会議所活動において大切な役割です。それが青年会議所の基盤としてしっかりとした組織力ある団体への構築に繋がります。

私達の理念は絶えず継承していく必要があります。私達が青年会議所活動を行う期間は限られています。私達が卒業した後もこの理念を継承してくれるまだ見ぬ仲間を探していかなければなりません。青年会議所しか無かった時代から青年会議所もある時代と言われ、昨今の経済状況の中、会員拡大は容易な事ではありません。しかし私達が常に高い志を持って活動し、私達の魅力を発信し続けていけば、それに共感する青年は数多くいるはずです。会員拡大は乙訓青年会議所メンバー全員で行わなければなりません。まず一人が一名の入会候補者を自分の足で探し、メンバー全員で笑顔を持って迎えて下さい。地域市民との交流の場では、会員拡大への気概を持って行動して下さい。仲間として迎える事となれば、地域社会に貢献できるJAYCEEを育成する様努めて下さい。そこに必ず固い絆が生まれるはずです。その絆は私達が乙訓青年会議所を去った後も揺るがないものとして残り、地域活動の源として継承されていきます。

組織の礎として、運営基盤の整備に努めよう

乙訓青年会議所は公益社団法人として3年目を迎えます。名実共に公益団体として活動している今こそメンバー一人ひとりが公益団体の一員としての責任感を強く持つ必要があります。乙訓地域に開かれた事業を開催する為、私達は乙訓地域の公益性について絶えず考察していく責務があります。乙訓地域を知り、何が求められているのか、どうすれば地域の方々の利益となる事業開催が出来るのかを常に模索する事が重要です。公益団体として、地域からの負託と信頼に応える為にも、事業内容や予算などに細分化したチェック機能を持たせ、公益性と透明性のある運営基盤を確立する事が必要です。

青年会議所は会議を経て全ての物事が決まっていく組織です。青年会議所の醍醐味は、会議の場に着けば誰も平等に意見を述べる事が出来、賛同を得られればそれが反映され取り入れられます。会議に参加する側と設える側の両者が会議の意義を理解し、より精度の高い議論を交わせる様に考慮しなければなりません。我々の運動が効果的に行われる様、議案上程のシステムやルールを周知徹底する事が重要です。乙訓青年会議所が培ってきた素晴らしい会議運営形態を継承し、精度の高い会議を

行ない、乙訓地域に発信出来る為に活動していく必要があります。公益社団法人として、活動指針、活動報告の明確化が常に要求されます。厳密な運営を目指し、事業開催に向け、適正に予算編成、予算執行の審査、知的財産である肖像権や著作権に対する認識を高め管理体制を確立し、メンバー全員がこれらを理解した上で活動を行う運営基盤の形成が必要であると考えます。組織の骨格を形成する為、地域に貢献し、明るい豊かな社会の実現を目指す組織運営に必要なものは何であるか、検証し実践していく事は大きな使命です。

次代も地域の中核たる乙訓青年会議所を目指そう

乙訓青年会議所では、1998年に2020年ビジョンが策定されました。どのような時代変遷の中でも、普遍的な乙訓青年会議所としてのビジョンを策定する必要があるとの結論に達し、2020年ビジョンの理念「地球市民意識あふれる乙訓」が完成しました。2009年には新5ヵ年行動指針が策定され、今日まで青年会議所運動を展開してきました。

本年度は新5ヵ年行動指針の最終年度を迎え、この5年間の活動を検証し、次代へ向けた新たな指針の考察をしていかなければなりません。2020年ビジョンの達成に向けて乙訓青年会議所が歩んできた道を、より大きな歩みへと導く方向性をつける必要があります。

次年度乙訓青年会議所は、節目となる35周年を迎え、来たる40周年に向けての組織目標を明確にしなければなりません。それは私達が今後も乙訓地域の中核として地域貢献、地域振興に努めていく指針ともなります。その為にメンバー一人ひとりが今一度、私達は何の為に活動をし、何に向かっているのかを再認識する事から始める必要があります。そして新たな行動指針を策定し次年度以降への礎を築かなければなりません。

先輩諸兄が作り繋げてきた、地域からの信頼と素晴らしい理念を持ったこの乙訓青年会議所が、地域の中核として在る為にも、JAYCEEとしての誇りと気概を持って、まずは本年度の活動に全力で取り組みましょう。

青年会議所活動にノーサイド無し

青年会議所は自分の目標を確認、実現出来る場であります。入会の動機は様々だと思いますが、きっとそれぞれに、入会する事で自分に何かを得たいと考えたのではないのでしょうか。青年会議所で沢山の活動を率先して行動し、素直な心で熱い想いを持って取り組めば、その想いは必ず相手に伝わると信じています。その熱い想いが込められた活動がメンバーのみならず、地域市民に感動を呼び、大きな力となる事と確信しています。青年会議所活動にノーサイドはありません。その熱き想いは青年会議所を卒業した後も乙訓青年会議所、乙訓地域に刻まれ、継承されていくでしょう。そして皆様は青年会議所で得たかけがえのない友人と共に、培った経験を活かし各々の活動に邁進していくでしょう。その為に今を大切に、直心且つ熱動的に青年会議所活動に取り組んで下さい。私は乙訓青年会議所第34代理事長として、メンバー全員と真剣に向き合い、先頭に立ち、一年間邁進する事をここに約束します。